

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(1)調査研究の成果の発信								
【年度計画】 (東京国立博物館、京都国立博物館) 1)文化財修理報告書を刊行する。 (東京国立博物館) 1)東京国立博物館情報アーカイブを運用し、「東京国立博物館情報アーカイブ」等、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 2)紀要・図版目録等を刊行する。 3)法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。 4)研究誌『MUSEUM』を刊行する。(年6回)									
担当部課	学芸企画部企画課			事業責任者	出版企画室長 勝木言一郎				
【実績・成果】 (東京国立博物館、京都国立博物館) 1)『東京国立博物館文化財修理報告』XVを刊行した。 (東京国立博物館) 1)(東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号2411参照)。特別展図録・特集陳列印刷物(リーフレット)12件を発行した。そのうちPDFファイル版5件を東京国立博物館ウェブサイト上に公開することによって研究情報の普及を図った。 2)『東京国立博物館紀要』50号、『東京国立博物館図版目録 東洋彫刻篇』を刊行した。 3)『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXV 古今目録抄1』を刊行した。 4)研究誌『MUSEUM』649～654号を刊行した。 ○特別展図録・特集図録を編集した。 ○出版企画委員会6回、『MUSEUM』『紀要』等編集委員会8回を開催し、博物館の出版事業の拡充を図った。									
【補足事項】(東京国立博物館) ○以下の出版物を編集、発行した。 ・『MUSEUM』発行(6回) ・定期刊行物(4件) 『東京国立博物館紀要』50号、『東京国立博物館文化財修理報告』XV、『法隆寺献納宝物特別調査概報 XXXV古今目録抄1』、『東京国立博物館図版目録 東洋彫刻篇Ⅰ』 ・特別展図録・特集印刷物(リーフレット)等(13件) 《特別展図録》『キトラ古墳壁画』、『台北 國立故宮博物院—神品至宝—』、『東アジアの華 陶磁名品展』、『日本国宝展』、『みちのくの仏像』、『コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏 仏教美術の源流』 《特集図録》『能面 創作と写し』 《特別展印刷物》「3.11大津波と文化財の再生」 《特集印刷物》「古文書の世界」、「甦った飛鳥・奈良染織の美—初公開の法隆寺裂—」、「国宝再現—田中親美と模写の世界—」、「東京国立博物館コレクションの保存と修理」、「国宝 檜図屏風」 ・その他(12件) 「3.11大津波と文化財の再生」パンフレット、「The Great Tsunami of March 11, 2011 and Restoration of Cultural Properties」 「文化財の“臨床保存”—東京国立博物館の挑戦—」 『東京国立博物館所蔵 重要考古資料学術調査報告書(第4冊)—国宝埴輪挂甲武人・重要文化財埴輪盛装女子・重要文化財埴輪猪 附埴輪男子—』 『東京国立博物館ハンドブック』(日本語改訂版及び英語改訂版) 『自在置物』増刷、『根付 高円宮コレクション』増刷、「東京国立博物館コレクションの保存と修理」(平成21～24年度版)増刷									
 『東アジアの華 陶磁名品展』									
 『能面 創作と写し』									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
『MUSEUM』発行		6回	6回	B		6	6	6	6
定期刊行物		4件	—	—		5	3	4	4
特別展図録・特集印刷物等		13件	—	—		12	12	10	14
その他		12件	—	—		2	2	4	2
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 刊行の実績値が前年度に比べ高くなっており、その事業も順調に進んだため。							
【中期計画記載事項】収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 博物館における出版刊行事業を通じて、調査研究の成果が十分発信されたため。							

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 3112

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(1) 調査研究の成果の発信								
【年度計画】 (東京国立博物館、京都国立博物館) 1)文化財修理報告書を刊行する。 (京都国立博物館) 1)平成知新館開館に伴い、『京都国立博物館所蔵名品120選—京（みやこ）へのいざない—』を発行する。 2)研究紀要『学叢』を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分の概要を順次ウェブサイトで公開する。 3)社寺調査報告書等を刊行する。									
担当部課	学芸部		事業責任者		企画室長 宮川禎一				
【実績・成果】 (東京国立博物館、京都国立博物館) 1)『文化財保存修理所修理報告書12号』を刊行した。 (京都国立博物館) 1)『京都国立博物館所蔵名品120選 京（みやこ）へのいざない』を発行した。 2)研究紀要『学叢』第36号を刊行した。 3)社寺調査報告書についてはデータ整理に正確さを期すために次年度に刊行することとした。 ○特別展等の図録を2巻刊行した。									
【補足事項】 (京都国立博物館) 1)『学叢』第36号で、論文、作品研究、調査報告、修理報告、をそれぞれ1本発表した。 ○特別展等図録(2冊) ・南山城地域の古寺に伝来した彫刻や絵画・工芸作品の調査結果を盛り込み、特別展覧会「南山城の古寺巡礼」を開催、図録を刊行した。 ・21年から修理が行われていた国宝「鳥獣人物戯画」（高山寺蔵）の修理の様子や修理によって得られた新知見などを紹介、また高山寺の名宝の数々を公開する特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」を開催し図録を刊行した。 ○25年度に二度開催した京博紹介シンポジウム（東京・京都）の講演内容をまとめた『京博が新しくなります』（クパブロ）を26年8月に刊行した。									
									
					『京都国立博物館所蔵名品120選 京へのいざない』				
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
定期刊行物		2件	—	—		—	3	3	3
特別展図録・特集陳列印刷物等		3件	—	—		—	4	5	2
【年度計画に対する総合評価】 評定：C		【判定根拠、課題と対応】 判定根拠 平成知新館の開館に合わせて館蔵名品図録『京都国立博物館所蔵名品120選 京へのいざない』を刊行し、特別展覧会『南山城の古寺巡礼』及び『鳥獣戯画と高山寺』の展覧会図録を編集するなど館蔵品や古社寺の文化財の図録を刊行して研究成果の発信を着実に行った。また研究誌である『学叢』を発行して、学術研究成果を公開した。南山城地域の社寺調査報告書についてはデータ整理中であるため報告書は次年度に刊行する予定である。							
【中期計画記載事項】収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 一部刊行の遅れている報告書等があるものの、その他展覧会図録・研究紀要などを予定通りに刊行し、中期計画に沿って着実に研究成果の普及を行った。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(1) 調査研究の成果の発信								
【年度計画】 (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1)文化財修理に関する印刷物を刊行する。 (奈良国立博物館) 1)研究紀要『鹿園雑集』を刊行するとともに、学術研究公開の一環としてウェブサイトで公開する。 2)入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。									
担当部課	学芸部		事業責任者		企画室長 野尻 忠				
【実績・成果】 (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1)文化財修理に関する調査研究成果は、研究紀要『鹿園雑集』内に包摂する形で刊行した（27年3月）。 (奈良国立博物館) 1)研究紀要『鹿園雑集』は、前年度刊行予定であった分とあわせ、合併号として刊行した（27年3月）。 2)地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、東京文化財研究所との共同研究による仏教美術の光学調査の成果、館蔵品の修理実績等に関するパネル展示を行った(26年9月7日まで)。また、9月9日より同所にて特別企画「正倉院展ポスター昭和22—昭和63」（9月9日～11月30日）、仏像写真展「大和の仏たち」（12月2日～27年3月31日）を開催した。 ○展覧会等図録10冊を刊行し、その中に収蔵品の調査研究成果の一部を収録した。									
【補足事項】 ・展覧会等図録10冊を刊行した。 『武家のみやこ 鎌倉の仏像 迫真とエキゾチシズム』（特別展図録） 『国宝 醍醐寺のすべて 一密教のほとけと聖教一』（特別展図録） 『第66回正倉院展』（特別展図録） 『The 66th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』（特別展英語版図録） 『おん祭と春日信仰の美術』（特別陳列図録） 『お水取り』（特別陳列） 『正倉院展ポスター昭和22—昭和63』（特別企画図録） 『大和の仏たち 一奈良博写真真技師の眼一』（仏像写真展図録） ほか2件 ・特別展「鎌倉の仏像」にあたっては、読売新聞紙上に展示品紹介の連載を3回実施した。 ・「第66回正倉院展」にあたっては、読売新聞紙上に展示品紹介の連載を5回実施した。									
									
					展覧会図録				
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
定期刊行物		1件	—	—	年 変 化	1	—	1	—
特別展図録・特別陳列印刷物等		10冊	—	—		5	5	6	6
研究論文等発表実績		22件	—	—		33	29	31	22
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 入場無料ゾーンでの研究活動実績公開を複数回にわたり実施することができた。							
【中期計画記載事項】収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 展覧会図録等を予定通りに刊行し、中期計画に沿って着実に研究成果の発信を行った。							

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 3114

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(1)調査研究の成果の発信							
【年度計画】 (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1)文化財修理に関する印刷物を刊行する。 (九州国立博物館) 1)研究紀要『東風西声』を刊行する。 2)保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。								
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 今津節生					
【実績・成果】 (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1)九州国立博物館トピック展示「大涅槃展」展示図録に修理と科学調査に関する解説を掲載した。 (九州国立博物館) 1)研究紀要『東風西声』第10号を刊行した。 2)・保存修復活動の成果を反映させた教育普及事業を行った。 ・九州国立博物館トピック展示「大涅槃展」において、修理と科学調査に関するパネルを展示した。								
【補足事項】 (九州国立博物館) 1)研究紀要『東風西声』では、論文10本（うち当館職員9本）を掲載した。（27年3月刊行） 2)文化財保存のための講演会等を開催した。 ・文化財保存交流セミナーを開催した。 ○特別展図録・特集陳列等図録 11冊を刊行した。 (うちトピック展示図録 5冊)								
								
トピック展示「大涅槃展」 修理と科学調査に関するパネル								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
定期刊行物	1件	—	—		1	1	1	1
特別展図録・特集陳列印刷物等	11冊	—	—		11	10	9	11
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 特別展図録・特集陳列等図録 11冊を刊行するなど、年度計画を順調に達成している。						
【中期計画記載事項】収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 予定通りに図録を刊行するなど、中期計画に沿って順調に達成している。						

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化																																																		
事業名	(2)海外研究者の招聘等研究交流の実施																																																		
【年度計画】 (4館共通) 1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。(18人：東京6、京都2、奈良6、九州4) 2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(31人：東京6、京都15、奈良6、九州4) 3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 4)ICOM（国際博物館会議）大会の日本への招致に向けた活動を促進する。 (東京国立博物館) 1)学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。 2)日中韓国立博物館長会議を開催するとともに、IEO（国際展覧会オーガナイザー会議）等の国際会議へ参加する。																																																			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	国際交流室長 鬼頭智美																																																
【実績・成果】(4館共通) 1)韓国、中国、アメリカ、イギリス、タイ等より47名の研究者を招聘し、学術交流に寄与した。 2)韓国、中国、アメリカ、イギリス、ドイツ、オーストリア等に延べ18名の研究員を派遣し、学術交流及び展覧会準備・調査の実施、あるいは研究会・国際会議に参加した。 3)国立故宮博物院展関連事業として国際シンポジウムを、「東アジアの華」展の関連事業として記念講演会を開催した。 4)2019年ICOM世界大会誘致の足がかりの一つとして、「米欧ミュージアム専門家交流事業」を開催し、欧米の日本美術担当研究員10名（上記47名のうち）を招聘して、交流を深めた。(26年11月8日～16日) (東京国立博物館) 1)韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館、故宮博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流を行うとともに、海外での作品調査や特別展等共同事業の企画・実施準備、国際会議出席などのため海外に研究員を派遣、調査研究及び海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。 2)第8回日中韓国立博物館長会議を開催し、中国国家博物館・韓国国立中央博物館の館長らと交流・情報交換を行い、ネットワークを強化した。(26年9月18日) またIEOに研究員を派遣し、欧米各国を中心とした主要美術館・博物館の展覧会担当責任者との意見交換を実施し、ネットワーク強化を図った。(26年5月5～9日ウィーン)																																																			
【補足事項】(4館共通) 1)上記研究員派遣の人数については、当館予算で主体的に派遣した人数の延べ人数を示す。科学研究費及び外部の助成金等による派遣人数を含む人数は、派遣38人であった。 ※実績が目標値を大幅に上回っているのは、当初予算で実施可能な人数を目標値に設定しているため。 (東京国立博物館) 1)研究員の海外交流の成果を館内で共有するため、学術交流発表会を実施した。 ・韓国国立中央博物館との学術交流発表会（26年10月31日教育文化交流団展示課学芸員 朴恵元 氏、学芸研究室美術部学芸員 柳京熙 氏）館内30名参加 ・同(26年12月18日)26年度派遣の川村佳男研究員、三田覚之研究員による報告会を開催、館内15名、館外1名が参加した。 ・タイバンコク国立博物館長トッサポーン・シーサマーン氏らによる講演会（26年10月18日黒田記念館にて）に館内外あわせて30名が参加した。 2)・日中韓国立博物館長会議は、三館共同企画特別展「東アジアの華 日中韓陶磁名品展」の開会に合わせて開催、韓国国立中央博物館長、中国国家博物館副館長ら各5～6名が出席、三館での共同事業や学術交流について意見交換を行った。 ・IEOはウィーン美術史博物館が会場となり、欧米の主要美術館・博物館を中心に約100名が参加、展覧会実務の諸問題について意見交換を実施、また各館の担当者との交流を図った。 3)・特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」開催記念シンポジウム 『中国皇帝コレクションの意味—書画における復古と革新—』参加者数延べ422人 ・東アジアの華 陶磁名品展 記念講演会 参加者数220人																																																			
<table><tr><td>【定量的評価】項目</td><td>26年度実績</td><td>目標値</td><td>評価</td><td rowspan="5">経年 変化</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr><tr><td>海外からの研究者招聘</td><td>47人</td><td>6人</td><td>A</td><td>15</td><td>16</td><td>11</td><td>21</td></tr><tr><td>海外への研究者派遣</td><td>18人</td><td>6人</td><td>A</td><td>54</td><td>48</td><td>34</td><td>41</td></tr><tr><td>国際シンポジウム開催数</td><td>2回</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>1</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>国際シンポジウム参加者数</td><td>422人</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>323</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> <table><tr><td>【年度計画に対する総合評価】 評価：A</td><td>【判定根拠、課題と対応】 外部資金も活用し目標値以上の研究者招聘・派遣を行い目標以上の成果を達成した。今後、対象国がやや偏っていることの改善策を検討したい。</td></tr><tr><td>【中期計画記載事項】文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。</td><td></td></tr><tr><td>【中期計画に対する評価】 評価：A</td><td>【判定根拠、課題と対応】 中期計画をかなり上回る成果を達成し、順調に進んでいる。</td></tr></table>					【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25	海外からの研究者招聘	47人	6人	A	15	16	11	21	海外への研究者派遣	18人	6人	A	54	48	34	41	国際シンポジウム開催数	2回	—	—	—	1	—	—	国際シンポジウム参加者数	422人	—	—	—	323	—	—	【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 外部資金も活用し目標値以上の研究者招聘・派遣を行い目標以上の成果を達成した。今後、対象国がやや偏っていることの改善策を検討したい。	【中期計画記載事項】文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。		【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画をかなり上回る成果を達成し、順調に進んでいる。
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25																																											
海外からの研究者招聘	47人	6人	A		15	16	11	21																																											
海外への研究者派遣	18人	6人	A		54	48	34	41																																											
国際シンポジウム開催数	2回	—	—		—	1	—	—																																											
国際シンポジウム参加者数	422人	—	—		—	323	—	—																																											
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 外部資金も活用し目標値以上の研究者招聘・派遣を行い目標以上の成果を達成した。今後、対象国がやや偏っていることの改善策を検討したい。																																																		
【中期計画記載事項】文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。																																																			
【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画をかなり上回る成果を達成し、順調に進んでいる。																																																		
 第8回日中韓国立博物館長会議 (26年9月、東京国立博物館)  タイからの招聘者による 講演会(黒田記念館)																																																			



第8回日中韓国立博物館長会議
(26年9月、東京国立博物館)

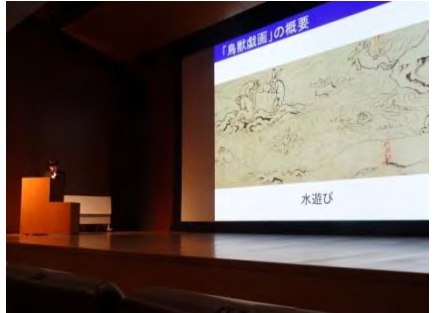


タイからの招聘者による
講演会(黒田記念館)

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 3212

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(2)海外研究者の招聘等研究交流の実施							
【年度計画】 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。(18人：東京6、京都2、奈良6、九州4) 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(31人：東京6、京都15、奈良6、九州4) 3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 4) ICOM（国際博物館会議）大会の日本への招致に向けた活動を促進する。								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 企画室長	植田義雄 宮川禎一				
【実績・成果】 (4館共通) 1) 26年度実績 2名 2) 研究交流並びに研修のため研究員を海外へ14人派遣した。 3) 「鳥獣戯画を語る」と題した特別シンポジウムを開催（26年11月15日）、第1部については日英同時通訳をつけた。 4) ICOM大会招致活動の一環である「米欧ミュージアム専門家交流事業」に協力した。事業の詳細は処理番号3211を参照。 5) 国際研究セミナー「日仏漆芸交流史を学ぶ」（1回・75人）を開催した。								
【補足事項】 ・研究員を作品調査、科研費調査及び国際会議出席などで派遣した。								
								
特別シンポジウム「鳥獣戯画を語る」								
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
海外からの研究者招聘	2人	2人	B		7	21	3	0
海外への研究者派遣	14人	15人	C		27	25	15	19
国際シンポジウム開催数	1回	—	—		1	1	1	—
国際シンポジウム参加者数	168人	—	—		213	150	209	—
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：今年度は新館開館準備に重点を置いたため、海外への研究者派遣がやや低調であったが、国際シンポジウムのほか、国際研究セミナーの開催や、さらには新館開館に伴い、海外からの研究者の訪問が多数に上るなど、数値に表れないところで国際交流の進展が見られた。 課題と対応：27年度は琳派に関する国際シンポジウムを開催予定。							
【中期計画記載事項】文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 判定根拠：毎年の国際シンポジウムをほぼ1回開催するとともに研究者の海外派遣を着実にしている。 課題と対応：今後は、より積極的に海外博物館及び研究者との交流を進めていきたい。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化		
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施		
【年度計画】 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。(18人：東京6、京都2、奈良6、九州4) 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(31人：東京6、京都15、奈良6、九州4) 3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 4) ICOM（国際博物館会議）大会の日本への招致に向けた活動を促進する。 (奈良国立博物館) 1) 学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。			
担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長 野尻忠
【実績・成果】(4館共通) 1) 中国・韓国の研究者等計9名を招聘し、今後の共同調査や展示活動等に関わる実りある情報交換を実施した。 2) 職員延べ13名を諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を図った。 3) 26年8月5日に韓国の古代古墳に関する国際研究集会を開催し、申大坤氏（韓国国立慶州博物館学芸室長）が「天馬塚出土文化財の意義」のタイトルで口頭報告した。 (奈良国立博物館) 1) 中国上海博物館、中国河南博物院、韓国国立慶州博物館との間で、学術交流協定に基づいて研究員等を派遣し、また招聘して、今後の共同調査や展覧会開催に向けて情報を交換した。			
【補足事項】(奈良国立博物館) 1) 学術交流協定に基づき、以下の交流を行った。 ・中国上海博物館との学術交流協定に基づき、同館から職員3名を10日間招聘、当館から職員3名を10日間派遣した。 ・中国河南博物院との学術交流協定に基づき、同館から職員2名を1ヵ月間招聘、当館から職員1名を約1ヵ月間派遣した。 ・韓国国立慶州博物館との学術交流協定に基づき、同館から研究員2名を各1ヵ月間招聘、当館から職員1名を1ヵ月間派遣した。 ○その他以下の交流を行った。 ・26年11月4日、韓国国立慶州博物館の館長と研究員1名を招聘し、博物館の状況や展示方法について意見交換した。 ・26年7月20日～22日、当館研究員1名を韓国慶州国立博物館に派遣し、日韓の文化財研究について情報交換した。 ・26年8月30日～9月5日に、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルス市のカウンティ美術館へ研究員等4名を派遣し、日本彫刻14件を調査した。 ・26年5月20日～25日に、フランス共和国パリ市に研究員等3名を派遣し、ルーブル美術館・同ランス別館、ギメ美術館、装飾芸術美術館、ケ・ブランリー美術館の展示ケース及び展示室内照明を視察した。 ・26年5月15日、インドネシアのジャカルタ特別州文化財保存研究所長ほか文化財行政関係者5名を受け入れ、文化財の保護について意見交換した。 ・26年12月3日、ブータン王国の文化局職員3名を受け入れ、当館の展示活動について講義した。 ○26年8月5日の国際研究集会には、館外の研究者を含む29名が参加し、活発な議論が展開された。			



河南博物院招聘者の現地研修 薬師寺
(奈良市)

【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
海外からの研究者招聘	9人	6人	A		9	20	7	9
海外への研究者派遣	13人	6人	A		14	19	17	8
国際シンポジウム開催数	—	—	—		1	—	—	—
国際シンポジウム参加者数	—	—	—		150	—	—	—

【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 海外からの研究者招聘、当館からの海外派遣とも充実した内容の実績を上げることができた。
------------------------	--

【中期計画記載事項】文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。

【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 学術交流協定に基づく交流が堅調で、招聘及び派遣を継続できている。
----------------------	--



河南博物院招聘者の現地研修 薬師寺
(奈良市)

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 3214

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化																																																
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施																																																
【年度計画】 (4館共通) 1)海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。(18人：(他館内訳略)九州4) 2)当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(31人：(他館内訳略)九州4) 3)国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 4)ICOM(国際博物館会議)大会の日本への招致に向けた活動を促進する。 (九州国立博物館) 1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。 2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。																																																	
担当部課	交流課 総務課 学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 篠崎孝司 課長 阿部 勝 課長 今津節生																																														
【実績・成果】 (4館共通) 1)オランダ、デンマーク等、海外の博物館・美術館等の研究者を35人招聘した。 2)当機構職員を台湾等、海外の博物館・美術館等に研究交流及び特別展「台北 国立故宫博物院-神品至宝-」等のため、82人派遣した。 3)国際シンポジウム「中国皇帝コレクションの意味－工芸における復古と革新－」を開催した。(10月25日150人参加) 国際シンポジウム「世界のアリタ ー有田焼の伝統と未来へ続く創造性－」を開催した。(3月8日253人参加) (九州国立博物館) 1)国際交流活動推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。(タイ芸術局、韓国国立公州博物館等) 2)海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存に関するセミナーや講演会を実施した。(オランダ7月14日、デンマーク27年1月27日)																																																	
【補足事項】 (4館共通) 1) 文部科学省招聘事業「新世紀国際教育交流プロジェクト・行政官等受入事業」によりベトナム国立歴史博物館やタイ芸術局から研究者等を招聘した。 なお、海外からの研究者招聘と海外への研究者派遣の目標値は、年度当初の予算をもとに設定したものである。これに対し実績値は、その他の予算を工夫しながら様々な事業に伴う研究者招聘ならびに研究者派遣の数を加えたため、目標値を大幅に超えた数値となっている。特に、特別展「台北国立故宫博物院－神品至宝－」では展覧会開催に向け様々な調整が必要になったことから、台湾からの招聘者ならびに台湾への派遣者が大幅に増加した。また、学術文化交流事業等の円滑な活動推進のため招聘者・派遣者数が増加した。 (九州国立博物館) 1)・学術文化交流協定に基づく交流事業により、タイ芸術局の調査団(6月12日～7月1日、11名)、韓国国立公州博物館の研究員(27年2月2日～13日、3名)等を招聘し、共同研究や研究員等の交流を実施した。 ・25年度文化庁委託事業「水中遺跡の保存活用に関する調査研究」の一環としてオランダ文化遺産庁、デンマークバイキング博物館より研究者を招聘し、各地の博物館等の視察及び当館で職員等を対象とした講演会を実施した。 (オランダ26年7月14日、デンマーク27年1月27日)																																																	
																																																	
				国際シンポジウム 「中国皇帝コレクションの意味－工芸における復古と革新－」																																													
<table><tr><td>【定量的評価】項目</td><td>26年度実績</td><td>目標値</td><td>評価</td><td rowspan="5">経 年 変 化</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr><tr><td>海外からの研究者招聘</td><td>35人</td><td>4人</td><td>S</td><td>9</td><td>21</td><td>3</td><td>16</td></tr><tr><td>海外への研究者派遣</td><td>82人</td><td>4人</td><td>S</td><td>77</td><td>56</td><td>60</td><td>87</td></tr><tr><td>国際シンポジウム開催数</td><td>2回</td><td>—</td><td>—</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>国際シンポジウム参加者数</td><td>403人</td><td>—</td><td>—</td><td>117</td><td>263</td><td>450</td><td>207</td></tr></table>									【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	22	23	24	25	海外からの研究者招聘	35人	4人	S	9	21	3	16	海外への研究者派遣	82人	4人	S	77	56	60	87	国際シンポジウム開催数	2回	—	—	1	1	2	1	国際シンポジウム参加者数	403人	—	—	117	263	450	207
【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	22	23	24	25																																									
海外からの研究者招聘	35人	4人	S		9	21	3	16																																									
海外への研究者派遣	82人	4人	S		77	56	60	87																																									
国際シンポジウム開催数	2回	—	—		1	1	2	1																																									
国際シンポジウム参加者数	403人	—	—		117	263	450	207																																									
【年度計画に対する総合評価】 評価：A				【判定根拠、課題と対応】 予算を工夫した結果、目標値を大きく上回る研究者招聘ならびに研究者派遣が可能となり、海外研究者との交流を活動的に行うことが出来た。また、シンポジウムについても着実に実施しており、計画通り順調に進んでいる。																																													
【中期計画記載事項】文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。																																																	
【中期計画に対する評価】 評価：B				【判定根拠、課題と対応】 一定数の研究者を招聘及び派遣し、国際シンポジウム、調査等も計画通り実施することができた。																																													

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化									
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム									
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。										
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 神庭信幸							
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(26年9月1日～11日の10日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定、及びセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容は、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。受講生は全国から26名が参加した。 ・レベルⅠの応用編として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ 陸前高田学校」(26年7月28日～8月3日の7日間)を別会場において開催し、受講生は11名であった。 ・大学院生のインターンシップを2人受け入れ、当館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(26年10月6日～20日)。 ・東京藝術大学保存科学研究室、日本博物館協会、岩手県立博物館、陸前高田市立博物館、特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)との連携し、大津波被災文化財保存修復連携プロジェクトとして「津波被災文化財の安定化処理に関するワークショップ」(27年1月30日)を開催し、参加者は30名であった。										
【補足事項】 (4館共通) 1) ・ICOM-CC, 17th Triennial Conference, 2014 Melbourneにて『Stabilization processing of cultural assets damaged by the tsunami of 11 March 2011』を発表した。 ・文化財保存修復学会第36回大会(26年7月20日、東京)において「津波被災資料の安定化処理—陸前高田市立博物館の取り組み—」を発表した。										
										
		「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ 陸前高田学校」の講義風景								
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25	
保存修理事業者を対象とした研修会										
開催回数		2回	—	—		2	2	2	2	
参加者数		37人	—	—		49	37	47	48	
インターン受入れ		2人	—	—		3	4	4	8	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 当初計画の通り「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠおよびⅡ」、大学院生のインターンシップを実施し、研修生に対して実践的な研修機会と知識の提供が出来た。								
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。										
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、関係機関と連携の上、文化財保存に関する研修を効果的に実施することができた。								

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 3312

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化									
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム									
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。										
担当部課	学芸部		事業責任者		上席研究員兼保存修理指導室長 赤尾栄慶					
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行った。また、2ヵ月に1回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。(巡回12回・会議6回) ・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟覧)を実施した。(計2回・87人) 26年6月9日 「南山城の古寺巡礼」展 (35人) 26年10月20日 「国宝 鳥獣戯画と高山寺」展 (52人) ・文化財修復に関わる大学院生 (1人)のインターンシップ実習 (26年8月18日～9月19日) を実施し、26年12月10日に口頭による報告会を開催し (出席者42人)、報告書を作成した。 ・国内外博物館における保存科学、修復の専門家、あるいは文化庁の主催する「指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー」による文化財保存修理所の視察を受け入れ、情報交換などを行った。(計6回・61人) 26年9月2日 国立台湾大学博物館及び京都大学総合博物館 (7人) 26年9月24日 フォルゲン博物館 (2人) 26年10月23日 文化庁 (25人) 26年11月14日 米欧ミュージアム専門家交流事業実行委員会 (20人) 詳細は処理番号3211を参照 26年10月30日 フリーア美術館 (2人) 26年12月16日 韓国學中央研究院蔵書閣 (5人) ・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を26年9月5日に実施した。(参加者19人)										
【補足事項】 (4館共通) 1) ・文化財保存修理所巡回によって、修理技術者から文化財の修復状況について説明をうけ、当館研究員から専門的な立場から指導・助言を行うことで、双方の見識にプラスとなった。 ・修理技術者に対する定例の研修会(熟覧)においては、実際の文化財を目にすることにより、修理技術の習得や向上に資することができた。 ・文化財修復に関わる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、修復技術の継承や今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。 ・保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会後に実施したアンケートでは、「技術や意識をしっかりと受け継ぎたい」、「大学院で実施している修復事業をより精度の高いものにしたい」あるいは「修復に携わるものとしての使命感を身につめられた」など、実際の修理現場の見学・説明といった研修を行うことで、学生の意欲や目的意識の向上を図ることができた。										
										
					保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会 (26年9月5日)					
【定量的評価】項目			26年度実績	目標値	評価		22	23	24	25
保存修理事業者を対象とした研修会						経 年 変 化				
開催回数			2回	—	—		4	4	4	3
参加者数			87人	—	—		166	160	169	140
インターン受入れ			1人	—	—		2	4	3	4
大学院生のための研修会参加者数			19人	—	—		16	13	29	18
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 年度計画に記載した事項については、修理技術者及び博物館関係者に益する内容を実施し、目標を達成している。							
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。										
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画に記載した所期の目標を順調に達成している。保存修理の意義をより多くの国民に知ってもらうため、一般向けの講演会の実施を検討したい。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム								
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。									
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生						
【実績・成果】 (4館共通) 1) ○保存修理事業者を対象とした研修会(計4回・67人) ・文化財保存修理所技術者研修会を1回実施した(27年1月16日)。(41人) ・国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計3回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。(計3回・26人) ・26年5月15日：インドネシア・ジャカルタ特別州職員による視察・研修(5人) ・26年10月17日：米国・ポールゲッティ美術館支援者による視察・研修(16人) ・27年1月9日：東京文化財研究所新入職員による視察・研修(5人) ○一般向け講演会等 ・文化財保存修理所の概要及び諸活動、修理内容に関する一般向けの講演会を実施(計4回)。									
【補足事項】 ○保存修理事業者を対象とした研修会 ・文化財保存修理所技術者研修会 27年1月16日に、文化財修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催し、漆工室工房代表者による漆工品修理に関する報告(「菊桐紋蒔絵眉作箱の保存修理」)を踏まえた討議を実施した。参加者は41人。 ○一般向け講演会等 ・26年12月25日、アメリカンエクスプレス主催「文化財プレミアム・ミュージアム・ビューイング」において、文化財保存修理所の活動に関する講演、及び特集陳列「新たに修理された文化財」のギャラリートークをそれぞれ1回実施。 ・27年1月16日、文化財保存修理所特別公開に伴い、当館研究員が講堂解説を実施。1日3回、各会約40人参加。									
									
文化財保存修理所技術者研修会 報告「菊桐紋蒔絵眉作箱の保存修理」									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
保存修理事業者を対象とした研修会									
開催回数	4回	—	—			6	7	9	6
参加者数	67人	—	—		—	97	93	71	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 文化財保存修理所の修理技術者研修会を実施し、漆工室工房代表者による報告に基づいた活発な議論を通じて、各工房の技術者及び当館研究員の垣根を越えた研鑽を積むことができた。文化財保存修理所の研修・視察申し込みが例年に比べて少なかったが、今後はインターンシップの受け入れなど修理技術交流の方法を新たに検討していく。							
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、関係機関と連携し研修会等を実施することができた。また、修理技術者研修会などを通じて文化財保存修理所の各工房が垣根を越えた研鑽を積むことで、修理現場における工房同士の協業が増えており、文化財保存修理所全体の活動の活発化につながっている。また講演会などを通じてそうした活動内容を広く一般に伝えることができた。							

【書式A】

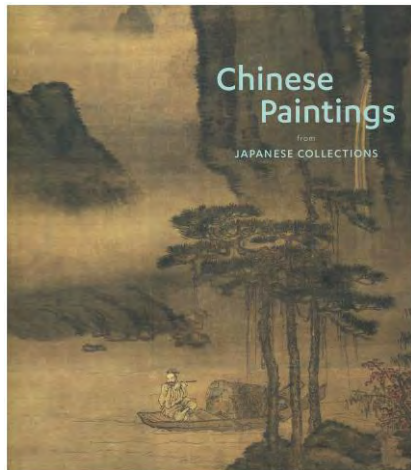
施設名 九州国立博物館

処理番号 3314

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム								
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。									
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 今津節生						
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を行った。(3回30人) ・文化財保存、IPM普及のための講座・研修を開催した。(計6回145人)									
【補足事項】 ○保存修理技術者を対象とした研修会 ・短期インターンシップ「文化財保存修復研修」(大学生 6名)(1回) 26年8月18日～22日 ・古文書保存基礎講座(文化財関係者 24名) 27年1月30日、31日(2回) ○IPM普及のための研修会 ・環境調査報告会(環境関係者 20名) 26年6月11日 ・IPM普及のための連絡会議 (連携協力：NPO法人ミュージアムサポートセンター) 会議1回 27年1月23日 参加者 41名 ・ミュージアムIPM研修(基礎編・技術編・実践編) 研修会4回 参加者 84名									
○一般向け講演会等(計2回・64人) ・文化財保存国際交流セミナー ・第1回文化財保存国際交流セミナー(26年4月13日) 参加者 40名 シリチャイ・ワンチャルーントラクン氏(タイ王国芸術局国立博物館部保存科学専門官) 「バンコク国立博物館における保存修復」 ・第2回文化財保存国際交流セミナー(26年5月30日) 参加者 24名 大沢眞澄氏(東京学芸大学名誉教授) 「文化財科学研究の発展を辿るー考古科学を中心に」									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
保存修理事業者を対象とした研修会									
開催回数		9回	—	—		22	10	7	6
参加者数		175人	—	—		—	263	280	139
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価：B		保存科学、修理技術、博物館関係者等がそれぞれ多く参加したことにより、有意義な研修会を開催することができた。							
【中期計画記載事項】									
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。									
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】							
評価：B		中期計画に基づき、保存科学、修理技術及び博物館関係者等の様々な分野の専門家と連携しながら、着実に研修会を実施し、成果をあげている。							



第2回文化財保存国際交流セミナー
講演風景

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(4)収蔵品の貸与								
【年度計画】 (4館共通) 1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 (東京国立博物館) 1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。 2)海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する(海外交流展出品作品を含む)。									
担当部課	学芸研究部列品管理課		事業責任者		課長 富田 淳				
【実績・成果】 (4館共通) 1)国内の博物館等108機関に1,059件の作品を貸与した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1)大阪府立近つ飛鳥博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。 (東京国立博物館) 1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。 2)海外の美術館・博物館等延べ7機関に71件の作品を貸与した。									
【補足事項】 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1)東京国立博物館では、考古資料相互貸借事業経費により、大阪府立近つ飛鳥博物館に50件を貸与、12件を借用した。借用品により、特集「西日本の埴輪―畿内・大王陵古墳の周辺―」を開催した。 (東京国立博物館) 1)アメリカのロサンゼルスカウンティ美術館で開催された特別展「日本所蔵の中国絵画展」には、当館から19件の文化財を貸与し、作品展示・展示替え・撤収・輸送随伴・シンポジウムに延べ4名の人員を派遣した。									
									
					ロサンゼルスカウンティ美術館 「日本所蔵の中国絵画展」図録				
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価		22	23	24	25
貸与件数		1,130 件	—	—	経年 変化	1,315	905	1,295	1,137
うち国内の貸与件数		1,059 件	—	—		1,155	865	1,252	1,086
うち海外の貸与件数		71 件	—	—		160	40	43	51
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 平成館改修に伴う考古資料貸与業務中止により貸与件数は若干減少したが、予定通り貸与業務を行えた。							
【中期計画記載事項】収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき順調に成果をあげている。							

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 3412

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(4) 収蔵品の貸与								
【年度計画】 (4館共通) 1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。									
担当部課	学芸部		事業責任者		列品管理室長 浅見龍介				
【実績・成果】 (4館共通) 1)82機関に対し582件の収蔵品・寄託品貸与を行った。(うち海外3機関に対し12件) 収蔵品の貸与件数：272件 寄託品の貸与件数：310件 計：582件 ○本年度も継続してウェブサイトにて「貸出作品リスト」の公開を行った。									
【補足事項】 ・展示館建替に伴い「貸出し停止」措置をとる博物館・美術館が多い中、当館は積極的に貸出を行い、収蔵品の公開に努めた。 ・今年度は、東京国立博物館の「栄西と建仁寺」展に、国宝1件、重要文化財23件、重要美術品3件を含む68件の収蔵品を、「日本国宝展」に国宝12件（館蔵品4件、寄託品8件）を貸与した。 ・昨年度当館が企画した「魅惑の清朝陶磁」展を、奥田元宋・小由女美術館及びパラミタミュージアムに巡回し、収蔵品延べ122件を貸与した。 ・京都国立近代美術館の特別展「うるしの近代—京都、〈工芸〉前夜から」に38件、サントリー美術館の特別展「仁阿弥道八」展に25件、広島県立歴史民俗資料館の特別企画展「かぐわしき日本の香り」に12件などの大口貸与のほか、三井記念美術館の特別展「東山御物の美—足利将軍家の至宝—」には国宝2件、重要文化財2件を含む5件、仙台市博物館の特別展「樹木礼賛—日本絵画に描かれた木と花の美—」には重要文化財2件を含む8件などの収蔵品を貸与した。 ・海外では、大韓民国国立中央博物館の特別展「山水画、理想郷を追い求める（Landscapes: Seeking the Ideal Land）」へ1件、フランスのグラン・パレ・ナショナル・ギャラリーの「パリ北斎」展へ2件、フィラデルフィア美術館の海外展『Ink and Gold:Art of the Kano「狩野派」展』へ9件貸与した。 ・東京国立博物館、九州国立博物館等の特別展の京都における集荷に際し、一時保管庫を提供し、搬出入に立ち会った。									
 奥田元宋・小由女美術館 共催「魅惑の清朝陶磁」展									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
貸与件数		582件	—	—		297	429	304	626
うち国内の貸与件数		570件	—	—		281	426	301	623
うち海外の貸与件数		12件	—	—		16	3	3	3
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 出品申請に対しては、貸与先の環境、作品の状態を確認したうえで、積極的に対応した。							
【中期計画記載事項】収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、着実に貸与業務を実施することができた。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(4) 収蔵品の貸与								
【年度計画】 (4館共通) 1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。									
担当部課	学芸部		事業責任者		美術室長兼列品室長 岩田茂樹				
【実績・成果】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1)収蔵品と寄託品を、国内外合わせて47の機関に、計149件貸し出した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1)平泉町（平泉文化遺産センター）、島根県立八雲立つ風土記の丘資料館、涌谷町（涌谷町立わくや万葉の里歴史館）、色麻町（色麻町立農業伝習館）、五條市（市立五条文化博物館）の計5館との間で相互貸借事業を実施した。									
【補足事項】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 貸与申請のあったもののうち、作品の保存状態に問題がないものについては、展示期間や会場の温湿度の設定、また警備体制などを調査したうえで、慎重に、しかし可能な限りその全てに応えるように対処した。結果、100件を超える貸与件数となり、公私立等の博物館の展示の充実に寄与しえたと考える。 1)○貸出先47件の内訳 ・国立9件 公立28件 私立10件 海外0件 ○貸与作品149件の内訳 ・国宝20件(収蔵品6件・寄託品14件)、重要文化財41件(収蔵品8件・寄託品33件)、その他88件(収蔵品33件・寄託品55件) ・収蔵品 47件(絵画18件・彫刻7件・書跡4件・工芸6件・考古12件) ・寄託品 102件(絵画41件・彫刻32件・書跡7件・工芸19件・考古3件) (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1)相互貸借事業における貸与品件数、借用品件は以下のとおりである。 ・平泉町(平泉文化遺産センター)（貸与品：1件、借用品：15件） ・島根県立八雲立つ風土記の丘資料館（貸与品：3件、借用品：5件） ・涌谷町（涌谷町立わくや万葉の里歴史館）（貸与品：1件（68点）、借用品：5件） ・色麻町（色麻町立農業伝習館）（貸与品：1件（68点）、借用品：0件） ・五條市（市立五条文化博物館）（貸与品：1件（89点）、借用品：5件（6点））									
									
					貸与品：国宝 木造薬師如来坐像 館蔵品				
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
貸与件数		149件	—	—	年 変 化	159	118	102	135
うち国内の貸与件数		149件	—	—		145	113	100	135
うち海外の貸与件数		0件	—	—		14	5	2	—
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 計画どおり、貸与申請に対して慎重に、かつ積極的に対応できたため。貸与件数についても例年と同様、100件を超える貸与を行った。なお本年は考古相互貸借も5機関と実施することで、広く文化財の公開に寄与できた。							
【中期計画記載事項】		収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。							
【中期計画に対する評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、貸与申請に対して慎重に、かつ可能な限り全てに応えるよう対処し、文化財の公開活用に貢献することができ、中期計画は順調に進んでいる。							

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 3414

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化		
事業名	(4)収蔵品の貸与		
【年度計画】 (4館共通) 1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。			
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 富坂 賢
【実績・成果】 (4館共通) 1)国内 27 機関・海外 3 機関に収蔵品及び寄託品計 101 件を貸与した。 (機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。)			
【補足事項】 (九州国立博物館) 1)○国内の貸与先機関は、下記のとおりである。 ・国及び国立博物館 文化庁、東京国立博物館、京都国立博物館 ・地方公共団体及び公立博物館・美術館 (福岡県内) 九州歴史資料館、甘木市歴史資料館、伊都国歴史博物館、小郡市埋蔵文化財センター、太宰府市文化ふれあい館、求菩提資料館、福岡市博物館、福岡市美術館 (福岡県外) 宮崎県立西都原考古博物館、東北歴史博物館、東京都江戸東京博物館、堺市博物館、長野市立博物館、岐阜県現代陶芸美術館、吉野ヶ里歴史公園、佐賀県立九州陶磁文化館、長崎歴史文化博物館 ・私立博物館・美術館及び私立団体 財団法人古都大宰府保存協会 大宰府展示館、奥田元宋・小由女美術館、パラミタミュージアム、薩摩伝承館、MIHO MUSEUM、五島美術館 ○海外の貸与先機関は、下記のとおりである。 大韓民国国立公州博物館、大韓民国国立古宮博物館、フィラデルフィア美術館			



大韓民国国立公州博物館「武寧王時代の東アジア世界」出品 重要美術品 三上山下古墳出土獣帯鏡

【定量的評価】項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
貸与件数	101件	—	—		165	119	113	143
うち国内の貸与件数	89件	—	—		131	118	105	117
うち海外の貸与件数	12件	—	—		34	1	8	26
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 公私立の博物館等の要請に対し、適切に貸与を実施した。						
【中期計画記載事項】収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、適切に貸与を実施し、公私立博物館の展示等の充実に寄与することができた。						



大韓民国国立公州博物館「武寧王時代の東アジア世界」出品 重要美術品 三上山下古墳出土獣帯鏡

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化									
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進									
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (東京国立博物館) 1) 新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。										
担当部課	学芸研究部 総務部			事業責任者	部長 谷 豊信 部長 栗原 祐司					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、119件の援助・助言を行った。 ・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(21件) ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(48件) ・講演会やセミナー等における講演等での協力(7件) ・作品の展示・保存環境についての調査・指導(20件) ・博物館の管理運営にかかわる助言(23件) (東京国立博物館) 1) 新規貸与館に対する環境調査を実施し、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。										
【補足事項】 (4館共通) 1) ○文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力 ・日本博物館協会 日本のミュージアムのための国際発信力向上推進事業委員会出席 ・山梨県指定文化財調査委員会出席 など ○公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言 ・大阪市立美術館 日本書芸院と共催の書道展に関わる助言 ・東京都庭園美術館 スマートフォンによるアプリの開発と運用について など ○講演会やセミナー等における講演等での協力 ・文化庁 指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー講師 ・東京国立近代美術館 「海外日本美術資料専門家(司書)の招聘・研修・交流事業2014」研修講師 など ○作品の展示・保存環境についての調査・指導 ・岡田美術館、島根県立古代出雲歴史博物館、大分県立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、など (東京国立博物館) 1) 環境調査を実施した新規貸与館は、パラミタミュージアム、グラン・パレ・ナショナル・ギャラリーなど6館。										
					文化財救済活動 (岩手県山田町立鯨と海の科学館)					
【定量的評価】 項目			26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
公私立博物館・美術館への援助・助言件数			119件	-	-		84	126	85	114
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 件数、内容ともに適切に公私立博物館・美術館等に対する援助・助言を実施することができた。							
【中期計画記載事項】公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。										
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、援助・助言を着実にを行うことにより、我が国における博物館の中核としての機能が強化されている。							



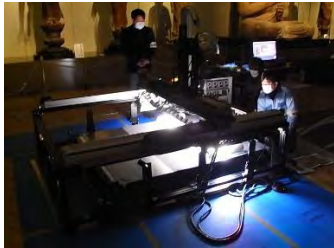
文化財救援活動
(岩手県山田町立鯨と海の科学館)

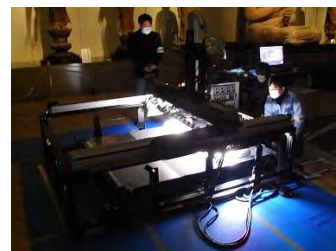
【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 3512

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進							
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。								
担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長 松本伸之					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、29件の援助・助言を行った。 ・文化財の展示、修理にかかる指導助言 (12件) ・文化財の調査に関する指導助言 (9件) ・講演会、セミナー等における講演等での協力 (7件) ・地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力 (1件)								
【補足事項】 ○文化財の展示、修理にかかる指導助言 ・碧南市藤井達吉現代美術館 作品展示の指導 など ○文化財の調査にかかる指導助言 ・大津市教育委員会 大津曳山祭総合調査の指導 ・徳島市立徳島城博物館 資料調査 など ○講演会、セミナー等における講演等での協力 ・上海・復旦大学中華文明国際研究中心 国際検討会へ参加し助言 など ○地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力 ・島根県文化財保護審議会								
								
徳島市立徳島城博物館 資料調査								
【定量的評価】 項目	26年度実績	目標値	評価	経年変化	22	23	24	25
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	29件	—	—		123	91	65	43
【年度計画に対する総合評価】 評価：C		【判定根拠、課題と対応】 26年度は平成知新館開館に向けた準備業務に重点を置いたため、人的資源を集中せざるを得なかったことにより、対応件数が減少した。次年度は解消される見込みである。						
【中期計画記載事項】 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：C		【判定根拠、課題と対応】 26年度は平成知新館開館に向けた準備業務に重点を置いたため、人的資源を集中せざるを得なかったことにより、対応件数が減少した。中期計画最終年度となる次年度は実績が上向く見込みである。						

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(5)公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進								
【年度計画】 (4館共通) 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (奈良国立博物館) 1)福岡市美術館、静岡市立美術館、岡崎市美術博物館で開催する「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り－」(主催：各開催館、法隆寺、読売新聞社)に学術協力する。									
担当部課	学芸部企画室		事業責任者		室長 野尻 忠				
【実績・成果】 (4館共通) 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対する援助・助言は、総計58件を実施した。 ・文化財の展示にかかる援助と助言 (13件) ・文化財の調査、保存、修理にかかる援助と助言 (14件) ・講演会やセミナー等における講演等での協力 (8件) ・文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力 (17件) ・博物館等の運営にかかわる援助と助言 (6件) (奈良国立博物館) 1)福岡市美術館、静岡市立美術館、岡崎市美術博物館で開催された「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り－」(主催：各開催館、法隆寺、読売新聞社)に学術協力した。									
【補足事項】(4館共通) 1)○文化財の展示にかかる援助と助言 ・四国民家博物館(高松市)開催の「手のひらの上の仏像」展(26年9月13日～11月30日)の展示内容への助言、陳列作業の指導 など ○文化財の調査、保存、修理にかかる援助と助言 ・雲辺寺(徳島県三好市)所蔵品の修復についての指導と助言 ・旧首里城正殿鐘の保存状態調査に関して助言 ・大型オルソスキャナーによる唐招提寺所蔵品のスキャン作業に伴う指導・助言など ○講演会やセミナー等における講演等での協力 ・奈良市教育センターにおける教職員研修講座での講演 ・公益財団法人京都市環境保全活動推進協会における博物館・講演ボランティア交流会に出席し講演 など ○文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力 ・文化庁 文化審議会専門委員(文化財分科会) ・奈良県教育委員会 奈良県文化財保護審議会委員 など ○博物館等の運営にかかわる援助と助言 ・公益財団法人大和文華館 など (奈良国立博物館) 1)学術協力した「法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り－」にあたり、福岡市美術館、静岡市立美術館、岡崎市美術博物館の各会場へ、展示指導・援助・助言のため研究員を3名ずつ派遣した。また法隆寺等からの展示品借り出し、返却作業のために延べ10日間にわたり研究員を総計8名派遣した。									
									
大型オルソスキャナーによる唐招提寺所蔵品のスキャン作業									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
公私立博物館・美術館への援助・助言件数		58件	－	－		35	98	67	71
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 援助・助言の件数、内容とも、十分な実績を上げることができた。							
【中期計画記載事項】公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 23～26年度を通じ、内容とともに援助・助言件数は堅調に推移している。							



大型オルソスキャナーによる唐招提寺所蔵品のスキャン作業

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 3514

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(5)公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進								
【年度計画】 (4館共通) 1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (九州国立博物館) 1)地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 2)地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティアのための I P M(総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催する。									
担当部課	学芸部		事業責任者		部長 井上 洋一				
【実績・成果】 (4館共通) 1)公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(57件) ・文化財の調査に係る助言(14件) ・文化財の保存修理にかかる援助、助言(12件) ・作品の展示及び運営等についての指導、助言 (19件) ・講演会、セミナー等における講演(12件) (九州国立博物館) 1)「古文書保存基礎講座」を実施した。 2)文化財関係者及び市民等に向けての研修会「ミュージアム I P M支援者研修」基礎編・技術編・実践編を実施した。									
【補足事項】 (九州国立博物館) 1)「古文書保存基礎講座」(第9回) 主催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館 協力：国宝修理装演師連盟 参加者数：24名 本研修は、協力団体共催の「寒糊炊き」にあわせて毎年開催している。 2)「ミュージアム I P M研修」 主催：九州国立博物館 博物館科学課 ミュージアム I P M研修 (基礎編2回)・(技術編1回)・(実践編1回) 合計4回実施 参加総数84名									
									
古文書保存基礎講座									
【定量的評価】項目		26年度実績	目標値	評価	経年 変化	22	23	24	25
公私立博物館・美術館への援助・助言件数		57件	—	—		77	97	109	64
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 計画通り、順調に進んでいる。							
【中期計画記載事項】 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 講座及び研修会等を実施しており、計画を順調に達成している。							